

私が**北九州市**の教員を目指した理由

ありのままの自分で、 子どもたちに 本気で向き合いたい



北九州市の教員になりたい！と想い続け、その夢を叶えた曽我部先生。新任教員として、子どもたちに真っ直ぐ向き合った教員1年目について語ってもらった。

北九州市立高須中学校 保健体育科教諭 曽我部快渡先生

ブレることのない北九州市への想い

教員になろうと思ったのは、中学時代の体育の先生の影響です。その先生が笑顔で楽しそうに授業をしている姿を見て、直感的に「自分のやりたい仕事はこれだ！」と思ったことを覚えています。小さい頃から率先して人をまとめるのが得意でし、リーダーシップを発揮することが好きだったので、教員に向いている性格だと自分では思っていました。

また、教員をやるなら絶対に北九州市だと決めていました。その気持ちがブレることはなかったです。母校の教員になりたいという夢もありましたし、恩師の先生方に頑張っている姿を見せたいと思っていました。それに自分が生まれ育った北九州市の子どもたちを育てることにやりがいも感じていました。

飾らず正直な気持ちを伝えること

教員になってこの1年、充実した日々を過ごしています。大人への反感であったり、自立心が芽生える時期の中学生を指導する難しさを感じることはありますが、子どもたちへの伝え方や接し方を工夫することによって、子どもたちの行動にいい変化が見られたときは充実感があります。子どもたちの様子をよく観察し、変化を敏感に感じ取ること、適切なタイミングで指導することの大切さを学びました。

失敗もたくさんありました。厳しく指導をしたり、一方的に話をしてしまったときは、「心に響いていな

いな、伝わっていないな」と思うことは多々ありました。そんなときは、自分を飾らず、思ったことを正直に伝えることが大事だと思って子どもたちと接しています。時間がかかることもありますが、自分が伝えたかったことを受けとめて変わってくれたと感じたとき、教員になってよかったなと嬉しくなります。

中学の時の恩師から言われた「子どもたちをまとめる人間として自分が率先して動かなければいけない。言葉だけでは子どもたちはついてこない」という教えはずっと心に残っていて、今でも大切にしています。「まずは教師である自分自身が行動で示す」。このことはこれからも意識していきたいと思っています。

信念を貫く強い気持ちが大事

北九州市には、北九州市の教員を目指す大学生や講師の方を対象にした「北九州市教師養成みらい塾」という講座があります。私も大学がある長崎から通いました。志を同じくする人たちと時間を共有し、共に学んだことで、北九州市の教員になるんだ！という気持ちが一層強くなりました。

教員を目指す皆さんには、「教員になりたい」と思ったときの気持ちを忘れずに、信念を貫いて頑張ってほしいと思っています。

私は、北九州市のことを誇りに思っていますし、日本の一の街だと思っています。これからもっともっといい街になってほしいですし、教員として北九州市の教育に貢献していきたいと思っています。



私が**北九州市**の教員を目指した理由

北九州市が好きで、 思いやりのある 子どもを育てたい

何もかもが初めてだった教員1年目。子どもたちと過ごす日々から多くのことを経験し学んだと振り返る寄宗先生。「せんせい！」と駆け寄ってくる子どもたちのために、もっと成長したいと語ってくれた。

北九州市立八枝小学校 教諭 寄宗美月先生

子どもたちの成長を後押ししたい

子どもの頃から「先生」という仕事に憧れていました。受験や様々な葛藤で悩んでいた中学生の時、担任の先生がクラス目標にしていた「敵は己にあり」という言葉が心に響きました。うまくいかないことがあっても周りの人と比べるのではなく、自分自身に目を向けること。この言葉は今でも大切にしています。

私はこれまで、たくさんの先生方にお世話になり、支えていただいたことで、成長できたと思っています。私も子どもたちの成長に関わり、成長を後押ししたいと思い、教員を目指しました。

大好きな子どもたちのためにできること

学校生活の中で心がけていることは、クラスの子どもたち全員と1日1回、どんなことでもいいから必ず会話をすることです。「せんせい、聞いて！」と駆け寄ってくる子どもたちの中には、いろんな思いや悩みをうまく伝えられない子どももいます。他愛のない会話の中から、それをうまく引き出して聞くように心がけています。また、積極的に話しかけてこない子どもに対しては、より注意をはらってこちらから話しかけるようにしています。

私はコロナ禍に教員になったので、マスクや机のまわりのシールドのために、子どもたちとコミュニケーションをとる難しさを感じてきました。マスクをしていると表情や感情が読み取りにくいので、「言葉の大切さ」もこの1年で学びました。子どもたちがケンカをしたとき

に、どのように話をすればお互いを納得させることができるのか、言葉の選び方や話し方がとても難しいということも感じています。

授業では子どもたちが積極的になってくれるような雰囲気づくりを心がけています。手を挙げて間違った答えを発表してしまうと、子どもたちはすぐ落ち込みます。そんなときは、「間違ってもいいよ。恥ずかしいことじゃないよ」と声をかけるようにしています。そうすると落ち込むことも少なくなり、まわりの子どもたちも「いいよ。助けてあげるよ」と言ってくれたりして。少しずつですが、友達を思いやる優しい雰囲気をつくることができたとかなと思っています。

教員になった教え子といつか再会できたら

北九州市には、採用試験合格者を対象にした「新採教員応援講座」というのがあって、学級開きの仕方やトラブルへの対応などについて学ぶことができました。おかげで安心して4月を迎えることができました。また、「kitaQせんせいチャンネル」というサイトでは、授業づくりを解説した動画などを見ることができ、私もよく利用しています。こうしたサポートは、とてもありがたいです。

私の夢は、自分の教えた子どもが、いつか北九州市の教員になって、再会することです。教え子と一緒に北九州市の教員として働くことができたら素敵ですね。

これからも、北九州市のことが好きで、思いやりのある子どもを育てていきたいと思っています。